

簿記・会計 解説

第1問

A. 各勘定口座の記入内容は以下の通りになる。

資産の勘定	負債の勘定	資本の勘定
[0] …増加 [1] …減少	[2] …減少 [3] …増加	[4] …減少 [5] …増加
費用の勘定	収益の勘定	
[0] …増加 [1] …減少	[2] …減少 [3] …増加	

問1

上記の内容から [2] と [1] に記入する取引は「負債の減少」と「資本の減少」(選択肢の**3.**)である。

問2

- (1) 青森商店から商品 ￥50 を仕入れ、代金は掛けとした。
…この取引の3分法、分記法による仕訳は以下の通り。

3分法	仕入 (費用)	50	買掛金 (負債)	50
分記法	商品 (資産)	50	買掛金 (負債)	50

以上より記入される勘定口座は

3分法による場合： [6] (費用の増加) と [3]
分記法による場合： [0] (資産の増加) と [3]

- (2) 商品 (原価 ￥80) を盛岡商店へ ￥100 で販売し、代金は現金で受け取った。…この取引の3分法、分記法による仕訳は以下の通り。

3分法	現金	100	売上	100
分記法	現金	100	商品 商品売買益	50 50

以上より記入される勘定口座は

3分法による場合： [0] と [9] (収益の増加)
分記法による場合： [0] と [1] (資産の減少) と [9] (収益の増加)

- (3) かねて購入していた営業用の土地を整地し、整地費用 ￥100 を現金で支払った。
…この取引の仕訳は以下の通り。

土地	100	現金	100
----	-----	----	-----

以上より記入される勘定口座は

〔0〕（資産の増加）と〔1〕

（4）本月分の給料 ￥ 1 5 0 の支払いにあたり、所得税額 ￥ 1 0 を差し引き、残額を現金で支払った。…この取引の仕訳は以下の通り。

給料	1 5 0	現金	1 4 0
		所得税預り金	1 0

以上より記入される勘定口座は

〔3〕（負債の増加）と〔6〕（費用の増加）と〔1〕

問3 選択肢の取引の仕訳は以下の通りになる。

0. 秋田商店へ商品を売り渡し、代金は掛けとした。

⇒ 売掛金 ××× 売上 ×××

1. 秋田商店への買掛金の支払いとして、小切手を振り出した。

⇒ 買掛金 ××× 当座預金 ×××

2. 店頭で商品を売り渡し、代金は当店発行の商品券で受け取った。

⇒ 商品券 ××× 売上 ×××

3. さきに秋田商店へ掛けて売り渡していた商品が、品違いのため返品された。

⇒ 売上 ××× 売掛金 ×××

このうち勘定口座の〔2〕（負債の減少）と〔9〕（収益の増加）に記入される取引は 2. である。

問4 選択肢の取引の仕訳は以下の通りになる。

0. 事業主の所得税を店の現金で納付した。

⇒ 引出金 ××× 現金 ×××

1. 従業員のために現金で立て替え払いした。

⇒ 立替金 ××× 現金 ×××

2. 事業主が現金を追加元入れした。

⇒ 現金 ××× 資本金 ×××

3. 事業税を店の現金で納付した。

⇒ 事業税 ××× 現金 ×××

このうち勘定口座の〔4〕（資本の減少）と〔1〕（資産の減少）に記入される取引は 0. である。「立替金」「事業税」は費用の勘定である。

問5. 商品の売買に関する契約を結ぶことは、実際に取引が行われたわけではないため、勘定口座に記入されない。よって 1. の取引は〔0〕～〔9〕のいずれにも記入されない。